

講義名	日本語資格試験講座 【N1対策】			授業形態	
担当教員	山本 晃彦	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

この授業は、日本語能力試験N1レベルの言語知識（文字・語彙・文法）、読解力、聴解力をつけることを目的とする。N1レベルの言語知識、読解力、聴解力は、社会で通用するコミュニケーション能力の土台となるものであり、大学の講義やゼミに対応することももちろん、日本で就職し、活躍するために不可欠な力である。さらなるコミュニケーション能力の向上を目指すとともに、N1合格のための問題の解き方のテクニックについても併せて学習していく。

到達目標

日本語能力試験N1レベルの漢字・語彙、文法、読解力を身に付け、活用することができる。学習していないことであっても、すでに知っている知識などを活用して考え、問題の正解を導くことができる。将来（本講義単位取得以降）の日本語学習について自分で目標や計画を立て、自律的に学習を続けていくことができる。

提出課題

毎回の授業後に課題を課す。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

試験や小課題について、授業中にフィードバックを行う。

評価の基準

宿題・課題（30%）、小クイズ・復習クイズ（30%）、レポート（30%）、授業参加度（10%）

履修にあたっての注意・助言他

本講義は日本語能力試験N1レベル合格を目標とした留学生対象の講義である。毎回の授業で欠席確認を行う。やむを得ず出席できない場合には、できる限り事前連絡すること。なお、遅刻を3回行うと、欠席1回とみなす。

教科書

.使用しない。

参考図書

.日本語能力試験 完全模試N1.	藤田 朋世、菊池 富美子他	Jリサーチ出版	2200	978486392121
.日本語能力試験公式問題集 第二集 N1.	独立行政法人国際交流基金	凡人社	770	978489358936
.はじめての日本語能力試験 合格模試 N1.	アスク出版日本語編集部	アスク	1980	978486639316

その他

授業中に適宜プリント配布、あるいはインターネットを通じて資料を配布する。

授業計画

1. オリエンテーション、授業の進め方、評価の方法等。ミニ模擬クイズによる現在の実力判定
2. 言語知識・読解
3. 言語知識・読解
4. 言語知識・読解
5. 言語知識・読解
6. 言語知識・読解
7. 言語知識・読解
8. 復習クイズ・聴解
9. 言語知識・読解
10. 言語知識・読解
11. 言語知識・読解
12. 言語知識・読解
13. J-TESTの紹介 筆記試験
14. J-TESTの紹介 聴解試験
15. 復習クイズ ・今学期の振り返りと今後の学習計画の立て方

反転授業を行うため、毎回、N1レベルの言語知識や読解の練習問題を宿題として課す。授業では問題の正誤についてグループでディスカッションを行ったあとで、全体で確認し、質疑応答を行う。日本語能力試験後はJ-TEST（実用日本語検定）について受験し、日本語能力試験との類似点と相違点について紹介。なお、受講生の習熟度等により、授業計画を調整する場合があります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/>	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に配布する練習問題を行い、分からない語彙や文法を調べ、2時間程度。授業中に間違った問題や知らなかった語彙・表現、学び覚えたい表現等について単語帳を作成...2時間程度

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

留学生を対象とした科目群で、実用的かつ基礎的な日本語能力を修得するとともに、豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持った人材を育成する科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。国内の日本語教育機関でのJLPT受験対策、また海外ではJLPT受験対策講座で各地を訪問した経験を活かし、受験のテクニックを含めた日本語支援を行う。

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考

備考